



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
定価 1部44円
(購読料は分担金に含む)
題字 井戸 知事

「消したかな」
あなたを守る
合言葉

天満大池からの日の出
撮影場所 加古郡稲美町六分一

迎 春



「自立新時代に向かって」

兵庫県知事

井戸 敏三

新年あけましておめでとうございます。二十一年の幕開けから十年、新しい社会のしくみづくりが模索されています。デフレ経済下で経済雇用の停滞が長く続き、先行きに対する閉塞感が漂っています。まずはデフレ円高対策を適切に実行し、あわせて社会的枠組を再構築して将来不安を払拭するとともに、多様な地域個性を發揮して元気な地域づくりを進めなければなりません。そのためには、短期、中長期を見極め、直面する課題を明らかにし、将来ビジョンを描き、シナリオを準備して力強く実行する必要があります。

第二は、安全安心で質の高い生活環境。風水害や地震に強い県土づくり、地域医療や健康福祉の基盤づくり、充実した子育て環境づくり、街の賑わいづくりなど、生活の豊かさを確保します。また、山陰海岸ジオパークをはじめ、広い県土の豊かな自然と人とのふれあいを生かし、環境優先兵庫の魅力を高めます。

第三は、自立新時代への前進。関西広域連合発足を契機とした関西の自立、行財政構造改革と長期ビジョンの推進による兵庫の自立、人と社会の協働による地域の自立をめざします。

自ら考え行動する人々が拓く新時代に向かって、変化に負けない元気な兵庫を創っていきましょう。

新しい 自立の時代 創らんと
人と地域が 絆基に



新年のあいさつ

財団法人 兵庫県消防協会

会長 岸谷 義雄

新年あけましておめでとうございます。県下の消防団員・消防職員の皆様方には、ご家族おそろいで健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。平素は、消防協会の運営に格別のご理解とご協力を賜っており心からお礼申し上げます。また、地域住民の生命と暮らしを守るため、日々献身的にご尽力いただいておりますことに對しても敬意を表する次第でございます。

さて、最近の災害は複雑多様化し、私たちのこれまでの経験や知識を越えたものが多くなっています。昨年、県内においては、幸いにして大きな災害は発生しませんが、全国的に見ると相変わず記録的な集中豪雨により大きな被害が発生した地域もありました。

そのような中で、我々消防団員は、常に地域防災の中核として、地域の安全・安心の確保に重要な役割を果たしており、地域

住民から大きな信頼が寄せられているところであります。このような安全・安心に対する住民の大きな期待に応えるためにも、消防団員・消防職員が一体となつて、連携の強化、消防団の活性化に努めていくとともに、団員の被雇用者化、団員数の減少が継続など消防団の抱える多くの課題を解決すべく、次代を見据え、魅力ある消防団づくりに取り組んでいかなければなりません。

皆様方には、どうか今後とも住民の生命、財産を守るといふ消防の崇高な使命を達成するために、なお一層のご尽力をお願いいたします。

最後になりましたが、今年が災害のない平穏な一年でありますことを祈願し、県下の消防団員、消防職員の皆様方のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げまして年頭の挨拶といたします。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます

総 裁	井戸 敏 三	副 裁	吉 本 知 之	副 裁	金 澤 和 夫	副 裁	木 村 光 利	名 誉 会 長	関 山 巧	会 長	岸 谷 義 雄	副 会 長	祢 木 和 明	副 会 長	岸 本 重 男	副 会 長	荻 野 忠 志	副 会 長	坪 田 裕	副 会 長	小 林 正 幸	副 会 長	春 名 玄 貴	副 会 長	西 垣 豪 太 郎	副 会 長	足 立 進	副 会 長	向 内 良 夫	監 事	井 内 進	監 事	嶋 澤 清 美	監 事	中 西 君 一
-----	--------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	---------	-------	-----	---------	-------	---------	-------	---------	-------	---------	-------	-------	-------	---------	-------	---------	-------	-----------	-------	-------	-------	---------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

財団法人 兵庫県消防協会

平成二三年元旦

年 頭 の 辞



消防庁長官

久保 信保

平成二三年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、昼夜を問わず消防防災活動に御尽力いただいております、心から敬意を表

新春のご挨拶



財団法人 日本消防協会

会長 高木 繁光

平成二三年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。全国の消防団員、消防職員の皆様、常日頃、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。今日、災害や事故は複雑多様化の傾向を強めております。住宅等における火災は、依然としてあつたを絶たず、これにより多くの方々が亡くなっております。

し、深く感謝申し上げます。

我が国の消防は、皆様方のたゆまぬ努力の積み重ねにより、制度、体制、技術等各般にわたる着実な発展を遂げ、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしているばかりか、国際的にも高い評価をいただいているところであります。

昨年は、二月のチリ中部沿岸を震源とする地震による津波、六月から七月にかけての梅雨期における大雨による被害、記録的な猛暑による熱中症の救急搬送人員の増加、一〇月の鹿児島奄美地方の大雨被害など、様々な災害が各地で大きな被害をもたらしました。また、三月の札幌市グループ

ホーム火災の様に多くの死傷者を伴った火災、七月の山岳救助活動時における埼玉県消防防災ヘリコプターの墜落という大変心痛む事故は、いまなお記憶に残るところです。

このように、相次いで発生する自然災害や地域社会の情勢変化による災害の複雑多様化など、消防防災行政を取り巻く状況は、急流のごとく変化しており、国民の安心・安全を維持向上させていくためには、総合的な消防防災行政を積極的に推進していく必要があります。

このため、消防の広域化や緊急消防援助隊の充実強化など消防組織における体制の強化とともに、医療機関との連携等を一

層推進する必要があります。また、併せて一般家庭における住宅用火災警報器の設置の推進や、消防団や自主防災組織などの地域における総合的な防災力の強化にも積極的に取り組む必要が

あります。現在、消防庁では、消防団の充実強化についての検討や火災予防行政のあり方に関する総合的な検討等を行っており、様々な課題について消防関係者や有識者を交えて検討しています。今後とも全国の消防機関と一体となり、国民の皆様が安心して暮らせる安全な社会を確保していくため、全力を挙げて取り組んでいかなければなりません。皆様方におかれましては、我

が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様方のますますの御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



す。また、台風、集中豪雨による風水害も相次ぎ、特に昨年は、集中豪雨により各地で大きな被害が生じました。大規模地震の発生も懸念されており、消防の使命達成が益々重要となっております。

その中で、とりわけ消防団は、地域防災の中核として大きな期待を寄せられています。消防団が地域の要となり、婦人(女性)防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含み一般住民の皆さんも参加する総合的な地域防災力を充実させる必要が

あります。また、具体的な活動においても、現在の消防団は、消火活動はもとより、救命救助活動、火災予防、住宅用火災警報器の普及、応急手当の普及、水害、地震等の災害への対応等、高齢化の進展など難しい状況の中で期待される役割が益々大きくなっており、これらに

応えていくという課題もあつたります。一方、減少幅は低下したものの依然として消防団員の

減少傾向が続くなど、憂慮すべき状況もあつたります。

そのため日本消防協会では、総務省消防庁、全国の消防団とともに団員の確保について様々な努力を重ねております。特に昨年は、首都圏以外での開催では二例目となる全国消防操法大会を愛知県蒲郡市で開催し、併せて開催した防災展や交流物産展を含め一五、〇〇〇人の方々に

ご参加をいただきました。大会前日には消防応援団等の芸能界やスポーツ界の著名人もご参加いただいた激励交流会を開催いたしました。また、消防団の普段の活動の様子も織り混ぜて当日の大会の模様を紹介するテレビ番組も全国放映され、大会全体として消防団のPRを図る上で大きな効果があつたと思

います。また、日本消防協会では、関係機関のご支援の下、将来の地域防災を担う人材の育成につな

がる少年消防クラブの活性化にも引き続き取り組んでいきたいと考えております。本年二月には、アメリカ、ドイツからも指導者を招いて、「少年消防クラブフォーラム二〇一一」を開催する予定であり、活動事例を踏まえた基調講演、意見交換会、シンポジウム等を行い、少年消防クラブ活動の一層の活性化を図ることとしております。

平成二五年は自治体消防六五周年の年に当たります。従来、自治体消防発足四五周年、五五周年等の節目では、日本消防協会が中心となり、記念式典等を行ってきたところであります。関係が、この年は、明治二七年の消防組規則制定によって消防団が消防組として全国的にスタートして以来一二〇年に当たる年でもありますので、消防団一二〇

年記念という形を正面に押し出し、一般国民にも消防団への理解が深まるような記念事業を実施することといたしております。何分大きな事業であります

ので、本年から具体的な準備に着手したいと考えております。また、日本消防協会が運営しております福祉共済等の共済事業につきましましては、皆様のご支援により、継続への途を開く法律改正が行われましたので、これにより、具体的な事業継続についての検討を進めてまいりま

す。その他、公益法人制度改革などいろいろな課題があつたります。これらに適切に対処し、引き続き関係機関、団体との協力連携のもと、日本消防の更なる発展のため、全力を傾けてまいります。関係の方々のご支援ご協力をお願いする次第であります。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご健勝で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして年頭のご挨拶といたします。

「消防団員入団促進キャンペーン」

スタート!

総務省消防庁・兵庫県消防課

総務省消防庁では、消防団員の退団者が毎年三月末から四月にかけて特に多い時期を迎えることから、今年度も一月から三月にかけて、全国的な「消防団員入団促進キャンペーン」を実施します。

このキャンペーンの期間中には、広報誌、ケーブルテレビ及びホームページ等のあらゆる広報媒体を通じて、効果的な広報

を推進するとともに、キャンペーン期間中に開催される各種イベント等において、消防庁で作成された「消防団員入団促進ポスター」、「消防団PRビデオ」、「消防団員入団促進リーフレット」を活用していただき、消防団員募集の広報を推進していただきますようお願いいたします。



消防団員募集

空くじの収益金は、身近な街づくりに役立っています。平成22年度版消防団員入団促進ポスター

「消防団の充実強化についての検討会」

報告書の送付について

総務省消防庁・兵庫県消防課

総務省消防庁では、消防団活動の活性化を通じて、地域の安全・安心が推進されることを目的として「消防団の充実強化についての検討会」が平成二二年六月から五回にわたり開催されました。

このたび検討結果の報告書(消防団の充実強化についての検討会「報告書」)が取りまとめられ、消防庁のホームページにおいて公表されました。

報告書については各市町・消防本部あてに送付しております。(消防庁ホームページでも閲覧が可能です。)

また、兵庫県では、「消防団の充実強化について(平成二二年一月二四日付消第一六九七号)」を通知し、各市町において消防団員の確保に真摯に取り組まれるよう依頼を行いました。

消防団今昔

75

失敗を活かして

明石市消防団元副団長

戸田 利秋



昭和二四年、一六歳で明石郡大久保消防団松陰新田分団に入団しました。

昭和二六年、明石市、大久保町、魚住村、加古郡二見町の四ヶ市町村が合併して明石市となるが、消防団は各市町村に存続

し、四団で明石市連合消防団を編成していました。

昭和四〇年、団組織の大改編が行われ一市一団制を採り、その下に八分団四九班編成となり現在に至っています。在籍中の四三年間を振り返り、走馬灯の如く浮かんでくることを書かせていただきます。

班長をしていた時、昭和四〇年の組織の大改編に遭遇し、我が分団(この時より「班」と呼称変更)の四〇余名の団員を取り敢えず二〇名に削減せよとの事となり、遠隔地に働きに行っていたり、活動しにくい人達を断腸の思いで退団していただいた辛い思い出が昨日の事の様に甦って来ます。

次に恥ずかしい失敗談を披露します。

ボヤと言ってもよい位、小さな山火事が発生した時のこと、一本巻のホースを一人の団員が延長したところ、雄雌逆になっており、吃驚仰天。これが建物火災だったらと思うと身の毛が彌立つ思いでした。又、或る時、市がゴミを山の谷に投棄、埋立していた時にゴミが燃え出し消火のため、四台の可搬ポンプで中継しだしたところ、その内の一台が直ぐに燃料切れで停止してしまい当該班は、周囲より軽蔑の眼の集中を浴びました。

副団長の時、市長、警察署長、団長等の年末警戒の市内巡視をした時、ある班で「巡視者に敬意を払う」といふ言葉を注ぎ、また、地域住民へは、日頃から「火の用心」や「初期消火」の大切さを説くなど、団員からは全幅の信頼を得、地域住民からは、大変頼りにされています。また、春木団長は、「防災は皆で築くもの」を合言葉とし、それを実践するために、消防団と消防署の交流を盛んに行い、消防団と地域住民の防災研修会等を積極的に開催し、三者間の連絡を密にし、その信頼関係を築き上げています。

わがまちの団長さん

173

郷土を愛し続けて六七年

姫路市網干消防団長

春木 壽朗



姫路市網干消防団は、姫路市の南西部二五平方キロメートルを管轄し、一本部・六分団で構成されています。その網干消防団を束ねるのが、春木壽朗網干消防団長です。

春木団長は、吉美地区に生まれ、数多くの地元の行事に参加し、特に「魚吹八幡神社(通称「津の宮」)の秋季例祭には若

いころから携わってきました。魚吹神社の秋祭りは、網干地区二四ヶ村が集結する播州最大の祭りです。兵庫県の「無形民俗文化財」に指定され、その中でも「提灯練り」は他に類を見ない伝統ある行事です。春木団長は、吉美地区での秋祭りの中心的な役割を四五年間程続け、地元にはなくてはならない人物となっており、団長自信も今では魚吹の祭りだけではなく、他の地域・地方の祭りにも関心を持ち、各地の秋祭り見物を楽しみとし、色んな処へ出かけています。

春木団長は、昭和四五年に入団、四〇年の永きにわたり地域の水火災の災害防除や、火災予防に力を注いできました。平成二二年に網干消防団長に就任し、火災発生の一報を聞くと、

地区通信

新消防団車両更新

三田市消防団

「面積二一〇、二平方キロメートルを有する三田市では、市内各地に消防団の防災拠点として一二箇所の消防器具庫が点在しています。それらの器具庫には、火災や風水害から人命を守るための様々な資器材を格納してあり、多岐に亘る災害に備えており、近年の異常気象が原因と思われるゲリラ豪雨や突風等により、当市においても今までの常識では考えられない程の甚大な災害が市内においてもいつ

市消防本部の応援指導も仰ぎ、①基礎・基本の体得、新入団員対象に「体は心を表す」をモットーに、正しい着服・着帽、気をつけ、休めの姿勢、敬礼、行進の仕方、ホースの巻き方、ポンプ操作及び保守点検、②当地区のみの可搬式ポンプ操法大会の開催、③各分団役員が毎月第三日曜日に各班の訓練を巡視する。以上の活動の積み重ねの結果、明石市が県のポンプ操法篠山大会に初めて出場した時、県

代表に大久保地区の西大窪班が選ばれたことで結実しました。新入団員対象の訓練も、現在の明石市消防団の訓練計画に取り入れられました。その後、各班の訓練・活動の核になっているとも言える小型動力ポンプ付積載車が、又、見ているも勇ましい制服が配備され、消防団員の資質が格段に向上したことは喜ばしいことである。



車両取扱説明

ます。また車両には、二台の動力ポンプを積載しており、一台目の主ポンプは、B二級の三気筒四ストロークエンジンを搭載し、低騒音、低振動、排気ガスがクリーンで燃料消費も少なく、時代に則した最新のポンプとなっています。主ポンプの操作については、車両側面に遠隔操作が可能な装置を設けており、迅速な対応が可能となっております。もう一台の動力ポンプについては、山林火災や中継送水用にC1級のポンプを積載しており、主ポンプと同じく四ストロークエンジンを採用し、排気ガスも従来の物と比べて格段に少なくなり、使用も容易になっていることから主ポンプと組み合わせて効率的に火災を鎮圧で

きるよう整備しております。今後の車両整備についても団員の意見を取り入れながら、利便性の高い団車両の更新に努めて行きたいと考えています。結びに、昨年は、(財)日本消防協会から「特別表彰」といふを拝受するなど大変充実した一年でありました。また、(財)兵庫県消防協会会長、三田市消防団長として、ご尽力を頂きました。関山巧名団長が退団され、当市消防団も新体制となりました。関山名譽団長の意思を引き継ぎ三田市消防団も畑団長を筆頭に七〇四名が一致団結して市民の信頼と期待に応えられるよう、あらゆる災害に対応し、柔軟にまた、迅速かつ確実に対応できる組織でありたいと考えています。



秋祭り

余暇の楽しみは、各地の祭り見物の外に、「波止釣」に興じる日々を過しています。そのような穏やかな日々が、いつまでも続いてくれることを春木団長は祈っています。



納車式



新車両による放水訓練

故郷を歩く

垣内遺跡

淡路市

本市は、兵庫県の南部、淡路島の北端から中央部にかけて、島の北側約三分の一を占め、明石海峡大橋を通じ本州と隣接する、淡路島のウエルカムシティ

です。また、史跡徳島藩松帆台場跡、伊弉諾(いざなぎ)神宮、国指定天然記念物野島断層など名所・旧跡が数多く存在します。とりわけ、垣内(かいと)

遺跡は本市において最も貴重とされる文化財の一つで、今から一八〇〇年前の弥生時代後期に鉄器(鉄製の道具)を作っていたムラの跡とされています。

垣内遺跡は、兵庫県淡路市黒谷の五斗長(ごっさ)地区にあり、現在の海岸から直線距離で約三キロメートル、標高約二〇〇メートルの山上に位置します。遺跡の範囲は、東西に伸びる尾根を中心に南北約五〇メートル、東西約五〇メートルの範囲に広がっているものと予想され、遺跡周辺の丘陵上には、同じ時代の遺跡がたくさん発見されており、垣内遺跡との関係が注目視されています。

一つの遺跡で発見された鍛冶作業用の建物の数や大きさなどは、わが国最大級の遺跡といえます。これらの建物跡では鉄鍬(鉄の矢じり)などの鉄器や、素材の可能性がある鉄片など、数多くの鉄製品が発見されたほか、鍛冶炉や鍛冶工具なども残されており、当時の鉄器作りの作業を具体的に知ることができるといえます。

中国の史書『魏志倭人伝』には「基國本亦以男子爲王住七八十倭國相攻伐曆年乃共立一女子爲王名曰卑弥呼(そのくにもとまただんしをもつておうとなしとおとまることしちはちじゅうねんわくくみだれあいこ

ろている建物の様子から、弥生時代後期をとおして継続的に鉄器作りを行っていた様子が見えがえします。当時の鉄は手に入ることが困難な貴重な物資であり、文化財は国民共通の貴重な財産であり、火災による焼失等から保護し、後世に残すことは、私たち国民の極めて重要な責務です。

文化財を火災から守ろう！

消防庁予防課

者・管理者だけで成し遂げられるものではなく、地域の住民や消防機関などが一体となって継続的に取り組むことが必要です。

貴重な文化財を守るため、次のことに留意して、文化財防火に取り組みてください。

一、防災訓練の実施

防火訓練を実施する際には、次の点に留意してください。

- ① 消防機関への通報、初期消火、重要物件の搬出、避難誘導などの層が応的な訓練の考慮
- ② 見学者の多い木造建築物等については、火の回りが早いことを考慮した避難誘導
- ③ 使用した防火水槽の点検整備、消火剤の消費量の確認、替え及び反省会の開催

二、防火対策の推進

次の点に留意して、防火対策の推進に努めてください。

- ① 文化財の規模、立地条件、人員構成等の実態に即した消防計画の作成と、計画に基づく自衛消防組織等の防災体制の整備強化及び夜間等警備が手薄になる場合についての対策
- ② 喫煙、裸火の使用等の禁止区域内の巡視等を行うこと
- ③ 文化財周辺地域の住民と防災のための連携を密にすることによる、情報連絡体制

内遺跡は、淡路島、とりわけ島北部の地域社会が担った役割を示す歴史上極めて重要な意味を持つ遺跡と考えられています。

及び通報体制の確立

- ④ 消防用整備等の点検、整備の励行
- ⑤ 消防機関による防火診断等の実施
- ⑥ 電気・ガス整備、火気使用箇所、可燃物・危険物の保管場所等の点検・整備
- ⑦ 文化財周辺の環境の整理・整頓
- ⑧ 震災時に消火栓等が使用できない場合を想定した代替措置
- ⑨ 木造建築物等の点検及び応急資材の準備
- ⑩ 避難路及び避難場所の点検及び整備

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

皆様方におかれましては、新しい年を迎え、心機一転、改めて消防団活動に取り組んでおられることと思います。

さて、今月号では各団体代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、今月号も各地区から多数寄稿をいただき、ありがとうございました。

本年も「兵庫消防」を愛読のほどよろしくお願ひします。



堅穴建物の復元



土器作り教室の様子

われら若手消防団員

(35)

操法大会を通じて

加西市消防団

第一分団北条部

澤田 真至



私が消防団に入団したきっかけは、元々我が街には伝統の祭りがあり、私自身のその祭りに際しての役割も一段落し、違う

形で地域の方々と交流を持ちたいと思っていた時に同じ町の先輩からの一言でした。しかし、折しも世間では新型インフルエンザが猛威を奮い、消防団としての大規模な活動を自粛せざるを得ず、新人の私は「消防活動とは」も良く解らぬまま初年度が過ぎ去ってしまいました。正直この時の私は「消防団なんてそんなに力を入れなくてもいいのではないか」と思っていました。

その思いも次年度の消防操法大会で覆される事になります。市の大会で優勝を納め、消防本部での練習が始まった辺りから皆の士気がみるみる上がり、北播大会では異例の準優勝を勝ち取るに至りました。

チームが一丸となって一つの目標に向かう、正に私が思い描いていた消防団の姿がそこにあったのです。今回の操法大会では選手のサポートに徹する側でしたが、い

つかも選手として大会に臨みたいと強く思ったのであります。

文化財の防火は文化財の所有

